

第6章 水資源に関する理解の促進

1 水資源に関する理解の促進 ～「水の日」及び「水の週間」～

政府は、水の貴重さや水資源開発の重要性に対する国民の関心を高め、理解を深めるために、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として定め（昭和52年（1977年）5月31日閣議了解）、水に関する各種の活動を国、地方公共団体及び関係諸団体の緊密な協力のもとに実施している。

平成23年（2011年）の「水の日」及び「水の週間」は第35回目を迎え、平成23年3月に発生した東日本大震災では多くの地域で断水が起き、多くの被災者の方々が水を求めるなど、普段当たり前の水利用が大きく脅かされたことから、あらためて私たちが受けている水の恵み、水の大切さについて考えてもらう機会とするため、「水の恵み～東日本大震災を機に考える～」をテーマとして、以下の活動が実施された（参考6-1-1）。

（1）水の週間中央行事

東京都千代田区の科学技術館において、「水の恵み～東日本大震災を機に考える～」をテーマとしたシンポジウムや水の展示会を開催した。

（2）第33回「全日本中学生水の作文コンクール」

「水について考える」をテーマに、中学生による作文コンクールを実施した。

（3）平成23年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に、特に顕著な功績のあった個人又は団体を表彰した。

（4）第26回「水とのふれあいフォトコンテスト」

「水辺の憩い・水のある風景」、「暮らしの中で毎日使う水」、「作物や草木を育て、エネルギーを生む水」などをテーマにフォトコンテストを実施した。

（5）水の週間記念第31回隅田川レガッタ

一般・中学生等によるエイト、ナックルフォアを実施した。

（6）水の週間一斉打ち水大作戦

雨水や下水再生水など水道水以外の水を有効利用し、その効果を実感してもらう試みとして、全国各地で一斉に打ち水をする、水の週間一斉打ち水大作戦を実施した（参考6-1-2）。

（7）全国各地で、水に関する展示会、講演会、シンポジウム、水資源開発施設見学会、水源地域と水消費地域の人々の連帯意識醸成のための上下流交流会などが開催された（参考6-1-3）。

現在、東日本大震災の被災地では従前よりも豊かさや安全・安心を実感できる新しい地域づくりに向けて復興が進められている。

一方、日本全体を見渡せば、都市への人口や産業の集中、都市域の拡大、過疎化、近年の気象変化等を背景として、水循環系が変化し、水質汚濁、生態系への影響、洪水や渇水被害の増大などの問題が顕在化しており、健全な水循環の再生が求められている。

そこで、平成24年（2012年）の「水の日」及び「水の週間」については、あらためて私たちが受けている水の恵みを守り続けるために、一人一人何ができるのか考えてもらう機会と

するため、「水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～」をテーマとし、シンポジウムをはじめとした水の週間中央行事を行うほか、関連行事を機動的に実施する。